

第3章 基本方針

1 目指す姿

千葉県総合計画では、「農林水産業が魅力ある力強い産業に育っている千葉」を目指し、おおむね10年後の目指す姿が具体的に示されています。

本計画では、この目指す姿の実現に向けて取り組み、農業産出額については、2025年（令和7年）に4,500億円、2030年（令和12年）には5,000億円を目標として定め、このことにより全国第2位を目指します。また、県内漁港水揚げ金額については、2025年に580億円、2030年に600億円を目標として定め、全国第4位を目指します。

- 本県の農林水産業を支える人材が活躍し、所得の向上が図られるとともに、働きやすい環境が整えられることで、農林水産業を魅力ある職業として選ぶ若者が増え、世代間のバランスのとれた就業構造が実現している。
- 将来の具体的な農地利用の姿について地域の合意形成が図られ、農地の集積・集約と持続的管理が行われている。
- 先端技術の導入による「スマート農林水産業」の進展など、生産性の向上が図られるとともに、環境に配慮した生産活動や水産資源の適切な管理等により持続性を確保しつつ、成長産業として発展している。
- 農林水産物の生産・流通・販売において、加工や鮮度保持などによる高付加価値化やICT等の先端技術の活用による効率化が進み、マーケットニーズの多様化に対応できる体制が構築され、国内外で販路が拡大している。
- 千葉の魅力を生かした「農山漁村と食」の文化が創出され、本県の農林水産物が好んで選ばれている。
- 都市住民との交流の拡大により農山漁村を支える新たな動きが生まれ、農山漁村が国土や自然環境の保全、文化の伝承などにかげがえのない、大きな役割を果たしている。
- 本県の特色である豊かな地域資源の活用や多様な人材の活躍により、農山漁村が活性化している。
- 感染症や災害に対する迅速かつ的確な危機管理体制を構築している。
- 様々な災害に対する防災基盤等の整備が進んでいる。

2 基本目標

力強く、未来につなぐ 千葉の農林水産業

おおむね 10 年後までの数値目標を定め、農林漁業者の所得向上を図ります。

目標項目	現状値	2025 年 (令和 7 年)	2030 年 (令和 12 年)
農業産出額	3,853 億円 (令和 2 年)	4,500 億円	5,000 億円
県内漁港水揚げ金額	476 億円 (令和元年)	580 億円	600 億円
農業・漁業生産関連 事業の年間販売金額	750 億円 (令和元年度)	830 億円	1,000 億円

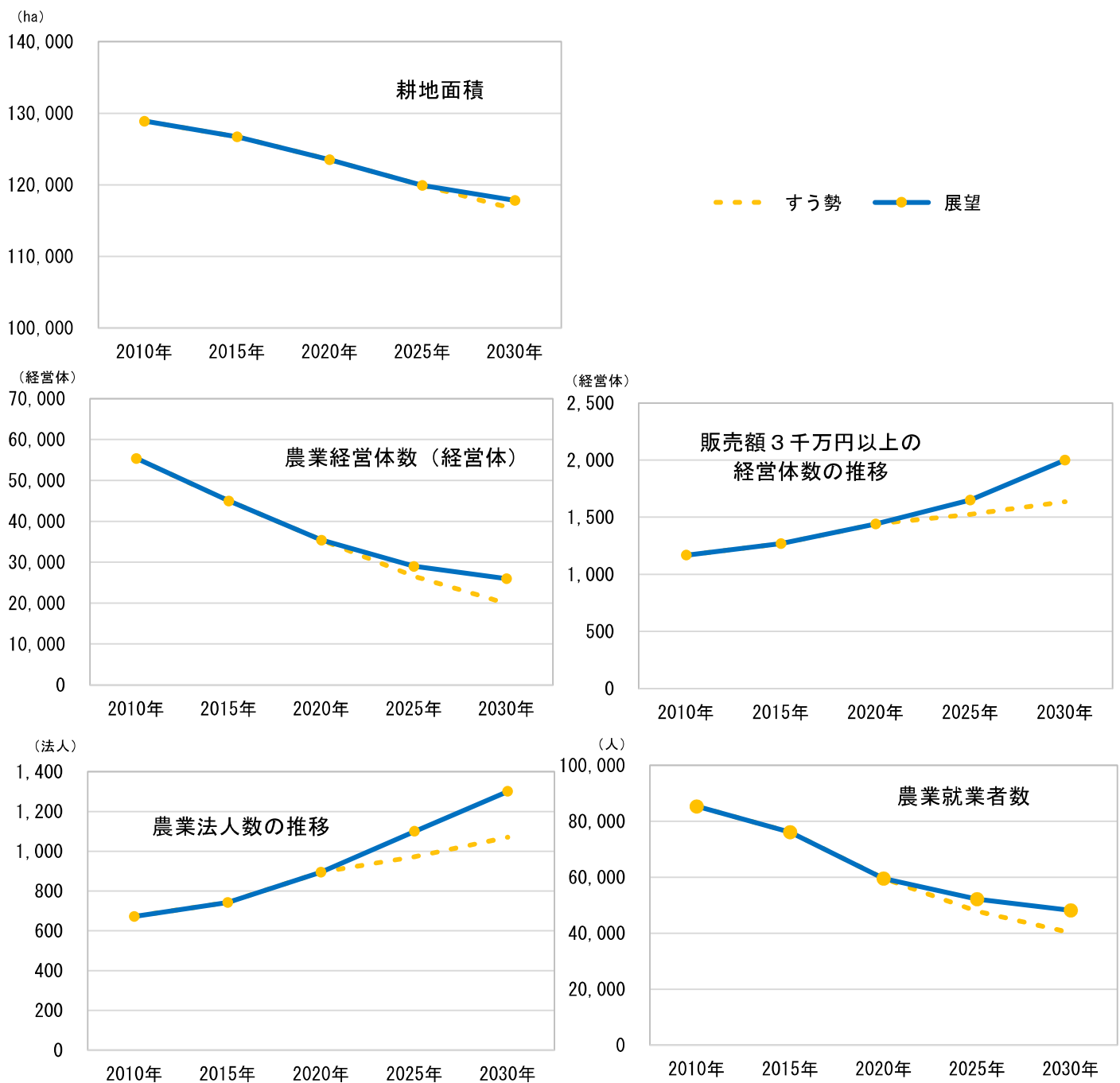
3 農業構造・水産業構造の展望

【農業構造の展望】

項 目	2010 年	2015 年	2020 年	2025 年	2030 年
耕地面積 (ha)	128,800	126,800	123,500	120,000	118,000
農業経営体数 (経営体)	55,387	44,985	35,420	29,000	26,000
うち販売額 3 千万円以上	1,168	1,270	1,441	1,650	2,000
農業法人数 (法人)	762	743	895	1,100	1,300
農業就業者数※ (人)	85,352	76,124	59,527	52,000	48,000

※基幹的農業従事者数、雇用者（常雇い）及び役員等（150 日以上農業に従事）の合計

○すう勢（施策を行わなかった場合の推計値）との比較



【水産業構造の展望】

項 目	2008 年	2013 年	2018 年	2023 年	2028 年
漁業就業者数	5,916 人	4,734 人	3,678 人	3,230 人	3,000 人
39 歳以下の漁業就業者の割合	12%	15%	17%	20%	25%

○すう勢（施策を行わなかった場合の推計値）との比較

